

四国中央市 考古資料館 企画展

# 「馬評」と、「宇摩郡」と、

—伊予の「評」と宇摩の古代—

四国中央市と宇摩郡の  
はじまり...

## ところ

四国中央市考古資料館

開館時間 9:00~16:00

休館日 毎週金曜日

入館料 無料

TEL 0896-28-6289



とき 2004年11月1日(月)~2005年3月21日(月)

写真: 「馬評」 銘須恵器長頸壺

# 「馬評」と、「宇摩郡」と、

## —伊予の「評」と宇摩の古代—

「評」とは「コホリ」であり、古代の地方行政単位で、その中核的施設が官衙、即ち役所である。「郡」を古くは「コホリ」と呼んだことは一般的にも良く知られている。「評」の成立時期については諸説あるが、七世紀後半において各地に成立したもので、八世紀初頭の大宝令以降「郡」へと引き継がれた。つまり、「評」を示す資料は七世紀代に他に先んじて成立した官衙(役所)の存在を示唆している。

伊予国(愛媛県)において「評」段階の官衙が知られているのは、中予では松山市の「久米評」と東温市の「湯評」、南予の西予市に所在する「宇和評」、そして、東予の四国中央市に所在する「馬評(宇摩郡)」である。

四国中央市はかつて「宇摩郡」と呼ばれていた地域を母体として2004年4月に誕生した市である。この宇摩郡は言うまでもなく大宝令以降の「郡」を継承したものであり、「馬評」はその前身と考えられる。言わば四国中央市という「官衙」の原点がそこにある。



### 馬評(宇摩郡)



写真：「馬評」銘須恵器長頸壺

須恵器の長頸壺の肩部に「馬評」と線刻されており、行書体の書き慣れた文字である。採集資料のため出土地は不明であるが、文字資料の分析から宇摩郡と対応する可能性が高い。

大小谷谷室跡から円面硯(スズリ)が出土していることから、七世紀代に宇摩地域に文字を書く階層の人々がいたことが分かり、古代官衙の存在を示唆している。

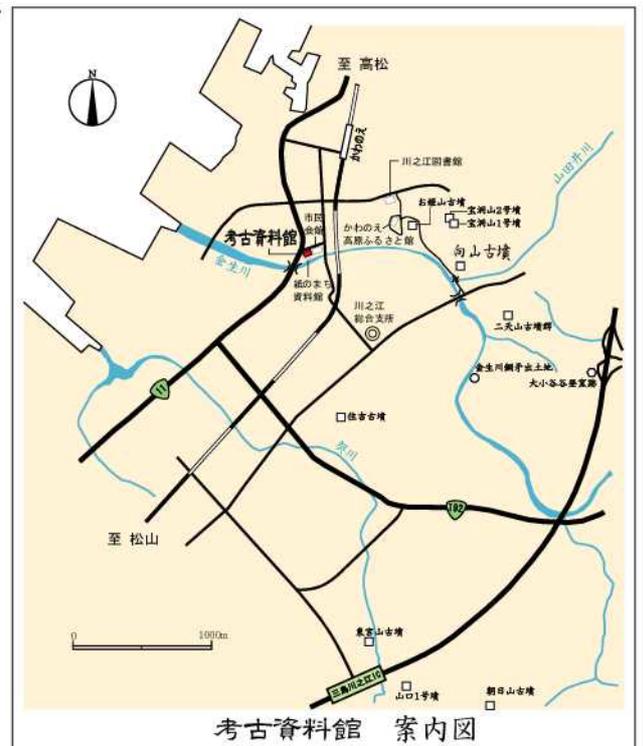
官衙跡に関連する遺構はまだ見つかっておらず、今後の調査が期待される。

### 久米評(久米郡)



写真：「久米評」銘須恵器

発掘調査により、様々な遺構が明らかになってきており、「久米評」銘須恵器も発掘調査に伴う出土品であり、資料的価値は高い。また、木筒にも記載があり、文字資料、遺構、遺物を合わせて最も明確に「官衙」が認識できる遺跡である。また、隣接して同時期の創建と言われる国指定史跡、来住廃寺があり、寺院と官衙の関係を含めた、初期官衙の様相が継続的な発掘調査により明らかになりつつある。



### 宇和評(宇和郡)

藤原宮跡から出土した木筒に「宇和評小□代熟」とあり、平城宮出土の木筒には「宇和郡」の記載も見られ、継続的に官衙が営まれたことが想定される。

西予市の岩木地区からは七世紀末～八世紀初頭の瓦も出土しており、古代寺院の存在を示唆するとともに、「宇和評衙(郡衙)」が「岩城」に所在した古代寺院に近接して造営された可能性が高く、南予において「宇和」が果たした歴史的役割を窺い知ることができる。

写真：藤原宮跡出土木筒(「宇和評小□代熟」)

考古資料館 案内図